

会 議 録

| | | | | |
|------------------------|------|---|------|----|
| 会議名 (付属機関等名) | | 令和元年度 第5回丹波市文化芸術推進審議会 | | |
| 事務局 (担当課) | | まちづくり部 文化・スポーツ課 芸術文化係 | | |
| 開催日時 | | 令和元年9月27日(金) 午後1時30分～午後3時00分 | | |
| 開催場所 | | 丹波市立春日文化ホール | | |
| 出席者 | 委員 | 出席委員：荻野直貴、藤野一夫、中澤正樹、廣瀬仁美、吉見順子 林 伸光、三木哲夫、山本浩史、大地常夫、山内順子 | | |
| | 指導者 | - | | |
| | 事務局他 | 丹波市副市長 鬼頭哲也 まちづくり部長 足立良二 まちづくり部 文化・スポーツ課 課長 高見智幸 まちづくり部 文化・スポーツ課 係長 長井 誠 まちづくり部 文化・スポーツ課 主幹 高見辰二 まちづくり部 文化・スポーツ課 機械員 足立 稔 まちづくり部 文化・スポーツ課 非常勤 釣巻利勝 神戸大学 大学院生・大学生 | | |
| 傍聴の可否 | | <input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可 | 傍聴者数 | 0名 |
| 傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由 | | - | | |
| 会議次第 | | 1 開会 2 あいさつ 3 説明・協議事項 (1) 丹波市文化芸術推進基本計画の素案について (2) 基本理念について (3) 丹波市文化芸術推進シンポジウムについて 4 今後の予定について 5 その他 6 閉会 | | |
| 会議結果 | | 審議経過のとおり | | |

会 議 要 旨 （ 審 議 経 過 ）

| | |
|-------------|---|
| 事務局 (係長) | <p>1 開 会</p> <p>失礼いたします。皆さん、こんにちは。文化・スポーツ課の〇〇でございます。</p> <p>本日は、ご多忙の中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。本日は、2名の委員の方からご欠席の連絡をいただいております。現在、3名の委員さんが見えませんが、追って出席いただけるものと思います。</p> <p>それでは、定刻になりましたので、ただ今から、令和元年度 第5回の丹波市文化芸術推進審議会を開会させていただきます。</p> <p>本審議会は公開で開催いたしますが、本日は傍聴者・記者の方はいらっしゃいません。</p> <p>それでは、ここで委員以外の方の出席について、ご説明をさせていただきます。</p> <p>審議会設置条例の第6条の規定に基づきまして、まずは神戸大学の大学院生・大学生、また副市長の出席をさせていただいておりますことをご了承のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>次に注意事項ですが、この会議は会議録調整のため、録音をさせていただきます。会議中のご発言の際は、ご指名の後に、お近くのマイクのスイッチを入れてからお話しいただき、最初にお名前を述べていただいてからご発言くださいますようお願いいたします。</p> <p>次に資料の確認をさせていただきます。先日、送付させていただきました、次第と資料、シンポジウムのチラシ、前回審議会の会議録。この会議録につきましては、後ほどご確認いただきまして、訂正等がございましたら10月4日（金）までにご連絡をよろしくお願いいたします。その後、丹波市のホームページにアップをさせていただきます。</p> <p>そして、〇〇会長よりご準備をいただきましたA4版の新聞記事のコピーでございます。最後に、文化ホールの自主事業等のチラシでございます。お手元でございますでしょうか。</p> |
| 事務局 (係長) | <p>2 あいさつ</p> <p>それでは、お手元の会議次第2番、〇〇会長よりご挨拶をいただきます。</p> <p>会長、よろしくお願いいたします。</p> |
| 会長 | <p>はい。皆さん、こんにちは。よろしくお願いいたします。</p> <p>先ほど、お話しがありましたように昨日の朝日新聞を開いたら、とても嬉しい記事が出ていました。多くの方はご存知だと思いますが、丹波市への移住が増えています。先に移住した先輩が、後から入ってくる移住者を支援するような循環が生まれているというようなことが取り上げられていました。赤色の下線を引いたところだけを少し目を通していただきたいのですが、昨年度の移住者は52人で、前年度より23人も増えています。それから、真ん中あたりの所ですが、地域の祭りに加わり、人の温かさに触れ、他の移住者との繋がりも生まれてきているようです。一般社団法人Be、あるいは「たんば“移充”」。充は充たすという字を使っていますが、「たんば“移充”テラス」の名称でネットでの情報発信や仕事の紹介、テレワークを活用したお試し移住などを企画・開催していて、昨年度の相談件数は2,355件にも上っています。そして、移住者と地元との交流会にも力を入れていて、移住前から移住後の暮らしまで支える。というようなことが</p> |

起きている。それから、地域おこし協力隊としての定住・定着も進んでいるというよう
な、良い移住・定住の循環が丹波市では生まれてきています。

私たちもこの2年間、色々とフィールドワークで各町を回らせていただいて、本当に
この地域というのは温かみがあって、丹（まごころ）の里として魅力があると思ってい
ましたが、それがこういう形で若い人たちの定住に結びつくようになったのだと思いま
した。それと、今回の文化芸術推進基本計画との関係ということになりますけれど、昨
年度に実施したアンケート調査においても、やはり今の移住促進に繋がってくるような
ポイントが出てきていると思います。

この後、課長より内容についてのご説明をいただくのですが、ちょっと先取りして33
ページの所をご覧ください。第2章の33ページに、「基礎調査等からの課題の抽出」と
いう項目がございます。主にアンケート調査結果の分析に基づいて、そしてこの基本計
画の4つの柱である「市民に関すること」「活動者に関すること」「子どもに関するこ
と」「活用に関すること」について、それぞれ数行で課題をここに挙げております。プ
ラス、実は昨日、もう一度このアンケート調査の報告、100ページくらいのもので
すが、ザーッと目を通して、もう一度やはり確認しておいた方が良いと思うのは、
やはり30～39歳までの世代です。これは、仕事や結婚などをきっかけに丹波市に移住し
てきて10年未満の方が、かなり多く含まれております。つまり、≒（ニアリーイコール）
子育て世代ということになりますけども、この30～39歳までの世代の文化的な渴望感と
いうのは、非常に強いという結果が出ていました。その文化的渴望感が浮き彫りになっ
たようなアンケート結果でした。つまり、この人達の多くは阪神間とか都市部に住んだ
経験があって、あるいは他地域に住んでいて丹波市に移り住むようになった人達なの
で、比較することが出来るということです。そうすると、その比較をした時に、やはり
丹波市における様々な文化芸術に対する提供物、魅力というのがありますが、提供物が
少ない、企画・事業が少ないと痛切に感じているようです。ですから、そのような文化
的渴望感をもし文化芸術を通して充たすことが出来るようになれば、この定住とか移
住の大きな引き金・鎧になるのではないかと改めて感じました。

それから、2番目は進学や就職でもって、18歳になって丹波市を離れてしまった人達
です。こういう人達と、それから丹波市にそのまま就職して住み続ける人との間でもっ
て、かなり大きな違いが出てきていました。そして、その進学とか就職でもって、市外
に一度出た人というのは、丹波市に戻ろうと思わない傾向が非常に強くなってしま
うという結果でした。ですから、逆に言えば文化芸術という仕掛けによって、Uター
ンを呼び込むようなことができないだろうか、ということを考えてしまう訳です。

この2点をかなり戦略的にやっているのが、今度のシンポジウムでもお話しになると
思いますが、豊岡市です。豊岡市の場合は、丹波市以上にもっと深刻な少子高齢化、人
口減少を抱えていますので、早急に手を打たないと20年後は大変なことになるという
ことで、かなり劇的な変化をしてきています。

ということで、課題の抽出の中で、出来れば今お話しした2点ぐらい、子育て支援、
文化的な渴望感をどうやって文化芸術によって充たしていくことが出来るのかという
ことと、一度進学や就職で市外に出てしまった人達にとって、Uターンの引き金として
どういう魅力的なことが出来るのかという、その辺がポイントになるのではないかなと
考えております。

3 説明・協議事項

(1) 丹波市文化芸術推進基本計画の素案について

(2) 基本理念について

会長

長くなりましたが、それでは、次第の「(1) 丹波市文化芸術推進基本計画の素案について」「(2)の基本理念について」を一括して、事務局よりご説明をよろしく願いいたします。

事務局
(課長)

はい。文化・スポーツ課長の〇〇と申します。よろしく願いいたします。

それでは、前回の審議会を7月24日に開催させていただきましたが、それ以降に修正した箇所を中心に、ご説明させていただきたいと思っております。

訂正箇所につきましては、赤字で訂正しておりますので、そのつもりでご覧いただけたらと思います。また、軽微な字句の修正につきましては、説明を省略させていただきますので、その点もよろしく願いいたします。

なお、本日につきましては、午後3時の閉会を目標としておりますので、どうかよろしく願いいたします。

基本理念

まず、素案の37ページをご覧ください。基本理念でございます。

丹波市における文化芸術の推進のために、基本理念として、現時点での案ですが、「多様な文化芸術を活かした、次世代の人づくり・まちづくり」としております。

その下段には、スキームとその説明を記載しております。

読み上げますと、丹波市の多様な文化芸術は、一朝一夕にできたものではなく、私たちの先人が長い歴史や、暮らしの中で大切に育み、現在に引き継がれています。一般に文化芸術には、人々の創造性を育み、その表現力を高めるとともに、人々の心の繋がりや、多様性を受け入れることができる、心豊かな社会を形成する力があります。私たちには、この文化芸術をさらに発展させ、次世代へ引き継いでいく責務があります。本計画における「文化芸術」は、芸術のみならず、伝統芸能・文化財・歴史的な建物・街なみなど、非常に幅広い意味で使っています。また、文化芸術を支える人や、基盤となる文化ホールなども、本計画の対象となります。この多様な文化芸術を活かしていく主体は、「市民」「団体」「行政」で、この文化芸術を活かしていくためには、大きく分けて2つの方向があります。1つは、文化芸術を人づくりに活かしていく方向と、もう1つはまちづくりに活かしていく方向です。まず、スキームの左側の人づくりや、「心豊かな暮らし」に活かしていくことについては、3つの「基本目標」があります。

1つ目は、市民の皆さんが文化芸術に親しみ、心を癒し、「豊かな感性」を育くむ等、暮らしの中で活かしていくということ。

2つ目は、文化芸術活動そのものを楽しみ、また、「後継者の育成」等に活かしていくということ。

3つ目は、文化芸術を活かし、将来を担う子どもたちの「郷土への愛着」「創造力」を育む。ということです。

一方、スキームの右側は文化芸術を地域資源として捉え、まちづくりに活かしていくということです。文化芸術を「観光」「広域交流」、そして「街なみなどの景観」「産業」等、「まちづくり」や丹波市の「発展」そのものに活かしていくというものです。

このように、本市の身近な暮らしの中にある“今ある、今している”多様な文化芸術を活かしていくことで、次世代の人づくり・まちづくりに繋げていきます。

施策体系

次に、38ページをご覧ください。施策体系表でございます。

このページは、基本理念から右のページ「10年後の将来像」までを見開きとなるように、変更をさせていただいております。

ここでは、さらに基本理念を分かりやすくするために、一番上をご覧ください。

基本的な考え方として、私たちの先人が長い歴史や暮らしの中で大切に育んできた、この多様な文化芸術の中で「今あるもの」。この「今あるもの」とは、文化財や歴史的な建物等。また、「今していること」は、和太鼓等のフェスタや県がされておりますシューベルティアードたんば等、20年以上も継続実施しているイベント等を「活かしていく」ということです。

言い換えますと、これら多様な文化芸術を「活かしていく」ことが、保存や継承、さらには丹波市の発展に繋がると考えております。

基本目標

次に、基本目標を4つ掲げております。最下段をご覧ください。

前回の審議会では、基本目標4を「文化的資源を活かす」としておりましたが、「文化芸術を活かす」に変更をさせていただいております。

理由としましては、当市におきましては、現在、文化財や文化芸術に関する計画がありませんので、今回の文化芸術推進基本計画の中で、文化財や歴史的な建物等の「文化的資源」についても、含めて参りたいとの理由からでございます。

基本方針

従いまして、右ページの下段の赤字の所をご覧ください。

「①伝統芸能・伝統文化等」「②文化財（技術を含む）」「③文化的資源」に分けて、前回の資料と同様に基本方針を設定しており、いずれも「活用」としております。

また、このページの基本方針の上から4つ目に、「④文化芸術の広域交流を進める」という基本方針を追加しております。この④の追加につきましては、のちほど、ご説明をさせていただきます。

施策の展開

次に、45ページをご覧ください。

このページは、「気軽に文化芸術の鑑賞・体験ができる機会の充実を図る」という基本方針に対しまして、(2)推進項目に記載のとおり、「年齢や、障がいの有無、国籍等に関わらず、すべての市民が等しく、気軽に文化芸術の鑑賞・体験ができる機会の充実を図るため」ということで、表の3段目の内容をご覧ください。「障がい者や高齢者等が鑑賞・体験しやすいように、文化ホールイベントでの手話通訳・要約筆記・託児所等の充実を図る」という推進項目を追加しております。

また、この表の1段目の施策には、「丹波市（県を含む）ならではの文化ホールイベントの実施」としてありますが、この“ならではの”の説明を、最下段で説明をさせてい

ただいております。いずれも、20年以上継続して実施しているイベントで、シューベルティアーデたんばや、アマチュアアーティスト育成支援事業の、バンド・ピアノフェスタ等、“丹波市の完全オリジナル企画”として、さらに進めていくということでございます。

次に、50ページをご覧ください。先ほど、基本方針に追加した項目に対するご説明です。基本目標1の基本方針「④文化芸術の広域交流を進める」ということで、その下のアンケート結果をご覧ください。文化芸術が盛んだと思う理由として、「市民・団体による文化芸術活動が活発である」が57.5%で最も多いのに対して、下から5段目の「国内外の文化芸術を通じた交流が活発である」が3.4%と非常に少ない結果となっております。このことは、丹波市外の文化芸術との交流に対する関心や必要性が低く、根づいていないことが考えられます。今後は、新たな文化を育むために、異なる文化の相互理解や他市との交流を進めていく必要があるのではないかと考えております。

次に、右ページの51ページをご覧ください。(2)推進項目として、表の1段目に「他市で活動する劇団や、アーティストの舞台公演を検討する」という内容の新規事業を追加しております。このことは、他市との異文化交流・広域交流に繋げて参りたいと考えております。その他、2段目・3段目につきましては、既に行っている事業の拡充ということで、追加をさせていただいております。

次に、55ページをご覧ください。このページは、「文化芸術活動への参加促進を図る」という基本方針に対しまして、(2)推進項目の2段目「若い世代が気軽に参加できる機会を充実する」ということで、若者に対する施策がありませんでしたので、例えば、アマチュアアーティスト育成支援事業のバンドフェスタでの「ジュニアステージ」、ダンスフェスタでの「踊ってみた」等の取組をさらに充実させていくという項目を追加させていただいております。

次に、57ページをご覧ください。このページは、「団体同士の連携協調を行う」という基本方針に対しまして、2段目の「春日文化ホールを展覧会の使用形態で無料開放し、分野を超えた団体が集う作品交流イベントを検討する」ということで、例えば、仮称「丹波市文化芸術の日」事業というものです。このような取組は、スポーツの推進においても「スポーツの日」を設け、グラウンド等を無料で開放するというような、同様の取組を文化芸術でもしていくということです。

次に、67ページをご覧ください。最下段に「トピックス」として、市民アンケートにおける「子どもが文化芸術に親しむことにより、どのような効果を期待しますか？」という質問に対する回答結果である、「①豊かな感性が生まれる 80.3%」等々を参考資料として追加しております。

次に、71ページをご覧ください。このページは、「伝統芸能・伝統文化等の保存・継承・活用を行う」という基本方針に対する、(2)推進項目の一番下の段の「伝統芸能・伝統文化の観光資源としての活用」につきまして、最下段の「トピックス」をご覧ください。観光との連携ということで、既存の観光資源に磨きをかけるとともに、新たな資源を発掘する必要があります。これは、平成30年3月に策定されました「丹波市観光・商工業ユニティプラン」の抜粋ですが、その中の下線部からご覧ください。「眠っている観光資源を発掘・活用し、これらの観光資源を効果的に発信し、丹波市に多くの観光客を呼び込むシティプロモーションを、有効な手段としていく必要があります」とされております。丹波市の文化芸術や歴史を活かしていくことで、丹波市の魅力発信に繋げ

て参りたいと考えております。

数値目標

次に、78ページをご覧ください。数値目標です。

前回の審議会の資料では、一番下段の黄緑色の部分のみでしたが、上段は「人づくり」、下段は「まちづくり」の指標に分けております。上段のピンク色の2段は、一番右の列に「出典」を記載しておりますが、総合計画の「市民意識アンケート調査」を採用しております。

また、3段目からの青色の部分は、教育振興基本計画で使用している指標を同様に採用しております。このことは、それぞれの上位計画との整合性を図る意味での「数値目標」でございます。なお、各計画におけるアンケート調査は毎年実施し、進捗管理をしていく予定にしております。

次第

次に、次第をご覧ください。

3番の説明・協議事項の「(1)本計画の素案について」をご覧ください。

基本的な考え方は、「今あるもの、今していることを活かしていく」ということです。

次に、①は新規・拡充・継続別に、先ほどの素案の中の推進項目をまとめたものです。新規は20件で、「丹波アートコンペティションの開催を行う」ことや、「他市で活躍する劇団や、アーティストの舞台公演を検討していく」ということで、このことは、他市との異文化交流・広域交流に繋がります。なお、新規が20件と多くございますが、非常に地道な取組みが多くあり、市民・団体・庁内の各部署が、積極的に進めて参ります。次に、拡充は20件で、「丹波市（県を含む）ならではの、特色ある文化ホールイベントを行う」ということで、“丹波市の完全オリジナル企画”として、さらに進めて参ります。また、現在の取組を継続していくものとしては17件で、これは舞台の裏方である「オペレーター養成講座」の実施など、現在の施策を継続して参ります。

次に、②は施策を基本目標ごとに分類したものです。基本目標1「市民に関すること」は11件で、課題としましては「市民自らが丹波市の文化芸術の良さを知らない。興味・関心がない」ということで、例えば、観光協会の事業でございますが、10ヶ寺もみじめぐり事業等、市内の文化芸術を再認識できるような、ツアー等の取組を進めていくということでございます。

次に、基本目標2「活動者に関すること」は18件で、課題としましては「団体同士の連携・協調が少ない。後継者の育成ができていない」ということで、文化芸術サロン（交流の場づくり）を行い、団体同士の連携・協調を深めていきます。次に、基本目標3「子どもに関すること」は12件で、課題としましては「文化芸術に触れる機会を必要に感じているが、その機会が充分でない」というアンケート調査の結果を重視し、丹波市の文化ホールイベントの中で、高校生が企画する卒業ライブ、0歳からのコンサート等、本計画の策定により、文化ホールイベントを幼児から若者、子育て世代を中心としたイベントを多くするなど、ホール事業の舵をきっていく必要があるのではないかと考えております。

最後に、基本目標4「活用に関すること」は16件で、課題としましては「後継者不足により、保存・継承が難しい」ということで、稲畑人形を活用した特徴ある展示会等を

実施するという取組を進めていくということです。活用していくことが、保存・継承に繋がります。トータル57の取組項目について、市民・団体・縣市を含めた“オール丹波市”で進めていく必要があります。

次に、「(2)基本理念」につきましては、参考に他計画の基本理念等を記載しております。

以上、誠に雑駁な説明ではございましたが、前回の審議会以降に訂正した箇所のご説明とさせていただきます。

なお、たくさんのボリュームとなっておりますので、お気づきの点がございましたら、本日の会議後でも結構ですので、何なりと文化・スポーツ課までご一報をいただければ、大変うれしく思います。

以上でございます。

会長

はい。ありがとうございました。

ただ今の説明は、前回から加筆変更があった所を絞っての説明でしたが、既に委員の皆さんのお手元には1週間前に資料が届いていると思いますので、お気づきの点・ご意見等がございましたら、是非ともご発言をよろしくお願いいたします。

最後の所に数値目標・K P I が出ており、これは10年間の達成目標として大体2%ずつ上昇させていくという根拠になっていますが、一律に2%ずつの上昇というのが、本当に根拠になるかどうかということが、とても気になります。

それから、最後に説明していただいた新規事業が20件あり、拡充する事業も20件あり、かつ、止めるのではなく継続するものがある。つまり、ある意味で歴史的・社会的な使命を終えたものを止めた上で、新規のものを創っていくということであれば、ある程度は計画の実現性というのも良く分かりますが、もし「今あるもの」をそのままにして新規を20件増やし、さらに拡張を20件増やしていった時に、その実現可能性について、つまり、マンパワーとか財源というのがちゃんと担保されているかどうか、ということが大変気になります。K P I の2%、年に2%上昇ということの根拠はそれでいいのか。一律に2%というのは良いのかどうか。

それから、新規とか拡張がこれだけ増える中で、マンパワーの拡張や組織の改編とか財源の確保というのが、本当に担保されているのかどうか。

この辺りについて、ご説明をお願いいたします。

事務局
(課長)

はい。ご質問を2点いただきました。

まず、78ページの数値目標につきまして、右から2番目の算出根拠で、「現状値から2%ずつ上昇」と一律にさせていただいているところのご質問であろうと思います。これにつきましては、先ほどもご説明をさせていただきましたように、総合計画や教育振興基本計画で使っているものと同様にさせていただいているところでございます。これが1点目でございます。

2点目の新規が20、拡充が20ということでございますが、この新規は出来るものとして各課から挙げてきたものでございます。大きなお金を掛けて新たに事業をするということではなく、現状において、取り組みが出来るものとしての新規20件です。例えば、何かの講演会をするとか。今回のアンケート結果によると、後継者が育っていない等の問題がありましたが、これまでは講演会をする場合はリーダー研修とかいうものが多か

| | |
|---------------------|--|
| | <p>ったと思います。そこで、これからは後継者の育成に関する研修をするというようなソフト面のことで、先ほども申し上げましたように、それぞれの担当課で出来ることを挙げさせていただいている結果ということでございます。もちろん、今までよりも1.1倍、1.2倍くらいは努力をする必要があるとは思いますが、そのような形で考えているところでございます。すでに、令和2年度の新年度予算要求が始まっておりますので、そういったところは、この計画に基づいた積算・計上をしていくというところでございます。以上でございます。</p> |
| <p>会長</p> | <p>はい。ありがとうございました。</p> <p>これから、人口が減っていく中で2%ずつ、文化芸術に関しては参加・関わる人を増やしていき、事業も増やしていくことは、簡単なことではないと思います。</p> <p>この計画が、まさに計画倒れにならないようにするためにはどうしたらよいか、ということをお知恵や創意工夫を伝達いただければと思います。</p> <p>では、お願いします。</p> |
| <p>〇〇委員</p> | <p>関連してですが、美術館に勤めていますと入館者数というのが指標に入ってきますが、これは努力目標なのかペナルティを伴う数字なのか。国では、目標の入館者数を達成できなければ、予算が減額されるということがあります。</p> <p>そういう数値目標なのか、いわゆる努力目標なのか、そこら辺はどちらなのでしょう。</p> |
| <p>事務局 (課長)</p> | <p>はい。この数値目標について、例えば達成できなかった際には予算が減額されたり、また努力目標であるのかというご質問であったかと思いますが、それにつきましては、市全体の計画について言えることだと思うのですが、目標を達成できなかったからといって予算が減額されたりするということは、今のところは無いと思っております。ただ、施策の中でも非常に重要な施策があると思いますので、そういった部分については、議会等から厳しいご指摘をいただくということもあろうかと思っております。そういった場合には、目標の達成に向けて、どういった取り組みをしてきたのかという所が非常に重要になってくるのではないかと思いますので、達成できなかった理由と言いますか、課題と言いますか、そういった所を整理して、次に繋げていくということが大切ではないかと思っております。</p> <p>以上でございます。</p> |
| <p>会長</p> | <p>〇〇先生、よろしいでしょうか。</p> |
| <p>〇〇委員</p> | <p>あくまで数値目標で、ペナルティが生じないことを祈っています。どうしても数字というのは独り歩きしますので。</p> |
| <p>会長</p> | <p>そうですね。私達が文化政策の上で一番ショックだったのが、やはり大阪の事例です。例えば、文楽で3万人に達しなかったら、もう助成金は出さないということを本当にやってしまうということが起きたわけです。この数値目標というのは、使い方によっては怖いものになっていくといったところですよ。</p> |

| | |
|-------------|---|
| | 他にいかがでしょうか。 |
| 〇〇委員 | もう一つ、お伺いしてもよろしいでしょうか。 |
| 会長 | お願いします。 |
| 〇〇委員 | 続いて申し訳ないですが、第1回の丹波アートコンペティションというのが開催されますけれども、これと市展との関係というのは、どうなのでしょう。 |
| 事務局 (課長) | <p>はい。ただ今のご質問は、市展とアートコンペティションとの関係についてのご質問だと思いますが、これまでは市民美術展を開催しておりました。10年ほど遡れば、美術大賞展というような全国公募の大きな展覧会もしておりましたが、第10回の開催を一旦の区切りに廃止をさせていただきまして、その後は市民美術展を開催しております。</p> <p>この市民美術展は、名前のとおり市民の方だけが作品を出品していただくものでしたが、このアートコンペティションは周辺地域からも作品を出品していただき、市民のモチベーションアップとなるように、名前も丹波アートコンペティションという形でさせていただき予定しております。客席を移動させまして、このホール内で作品展をさせていただきのですが、隣の春日住民センターも利用させていただき、今のところ200点ほどを予定しております。一旦、ここで入賞・入選作品の展示をさせていただいた後、再度、40点前後の入賞作品を植野記念美術館で展示させていただくという内容です。</p> |
| 〇〇委員 | わかりました。 |
| 会長 | <p>はい。よろしいですか。</p> <p>基本理念の37ページは後回しにしまして、今日の訂正のところでお一人ずつ、一言ずつでも構いませんので、ご発言いただければと思います。</p> <p>〇〇さん、いかがでしょうか。何かございますか。</p> |
| 〇〇委員 | すいません。ちょっとまだ考えが・・・ |
| 会長 | そうですか。では、〇〇さんどうですか。 |
| 〇〇委員 | <p>はい。私もまとまりきっておりませんが、妻が阪神間の出身でして、今日の報告にもあったのですが、やはりよく言うのが「丹波は何かにつけて選択肢がない」ということです。それは、子供たちを育てるといふ学びの場にしても、それから文化的なことに関してもですが、丹波市の人口が少ないとか色々あるとは思いますが、一つは丹波市を魅力のあるところ、人が集ってくる所にしようと思えば、やはりこういう文化芸術というのは大きい要素だと思っていて、本日配布された資料の新聞記事にもご紹介があったのですが、Iターンの方も素晴らしい技術を持っておられて、各地域ですごく活躍をされています。そういう方が核になって、また地域の方が一緒に関わって色々な取り組みを始められたり、文化活動を始められたり、良い花があちこちで咲いているのを見ますが、やはりそういう集まりや繋がりというのが非常に大事だと思っております。逆輸入では</p> |

ないですが、非常に良いことが起きていると思います。実際、この新聞記事の写真に写っている方は、一緒に吹奏楽をやっていますが、やはり技術的にもこんなやり方があるとか、運営の仕方はこうだとか、色々な知恵や経験を教えて下さっています。ですから、音楽だけではなくて、様々な分野でそういう地元の方との繋がりが出来ていけば、さらに人の輪も広がっていくということを自分が体験的に持っていますので、本日の提案はすごく良い提案をしていただいていると思っています。

それから、自分の村のことをいつも思いますが、やはり自分の村の良さを知らないとか、例えば地元の文化だけではなくて歴史的なものについても目の前にありますが、全然それに見向きもしないではないですが、値打ちとか何故これがあるのか、祭りがどういう形であったのか、何で祭りをやっているのかとかいう意義を考えたり、語りあったりする場がなかなか忙しさの中で無くなっております。こんなものは忙しいから止めたらいいじゃないかという感じで、形はすぐに無くなっていきます。私も、もっともっと自分なりに調べたことを村の人に伝えたりしたいと思っています。もちろん、たくさんさんの活動をされている方もいて、その中で一個一個を丁寧に今の自分達と繋がっている文化や祭り、そういう色々な意義を一つ一つ繋げていくということが必要だと思っています。丹波市の方が自分達のところを振り返えらないと育っていかない、そんな漠然とした思いですが、ずっと思っています。

3点目ですが、私も教育現場にいて、ずっと「ふるさと学」ということが言われています。各学校現場でも、地元の素晴らしい人のことを積極的に伝えているのですが、やはり教育現場のそういう取り組み、それから行政の方で色々進めていただいている美術館やホールを活用した取り組みをもっと活発に進めて欲しい。それにはお金もいると思いますが、丹波市にはこういったものがあり、良いものがある。また、文化的にもこういう催しがたまに来る。こういう世界もあるということ、ある程度の予算付けもしながら子ども達に両方伝えていくことも、やはり大事なのかと思います。これも謳ってあることなので、後々、具体的なアイデアをどう持って行くのかということではないですが、本日の話しや先日のシンポジウムに参加させていただいて、漠然とした思いですが、以上の3点を思っております。

会長

はい。ありがとうございます。

〇〇さん、いかがでしょうか。

〇〇委員

〇〇です。

先ほどから色々難しい話を聞かせてもらっている中で、この審議会でちょっと嬉しく思ったのが、計画のスキームの中で文化芸術を支える人や基盤となる文化ホールが本計画の対象となっている、入れていただいていることが、ホールのオペレーターとして嬉しく思っているところです。

また、毎月一回、文化ホールオペレーターの定例会を行っておりますが、その中でやはり毎回言っているのが、「皆さん顔を出して下さい」です。顔を合わせることで、人づくりだということの日頃言っているところです。やはり、そこから色々な話ができて、色々なことを共有でき、その中で共感できる部分があるのではないかと考えております。

また、この中にもありますが、ホールオペレーター等の後継者づくりとなる講座や研

| | |
|-------------|---|
| | <p>修会をたくさん実施していただいて、後継者を年々つくっていくという計画も期待しているところです。文化協会さんや様々な団体さんとの顔合わせにつきましても、今後の文化芸術における継続審議の中身にしていく部分があるのではないかと感じているところです。以上です。</p> |
| <p>会長</p> | <p>ありがとうございます。</p> <p>オペレータークラブは、兵庫県の各所で発展し、定着もしていると思いますが、いわゆる行き詰まりを見せている地域やホールもあります。それをどうやって乗り越えていったら良いのかという課題が、今出てきていると思います。丹波市の中でずっとやってきて、継承していくという時に県内の他のオペレータークラブ、あるいは国内で勢いが出てきている所との交流のような、そういった取り組みはあるのでしょうか。</p> |
| <p>〇〇委員</p> | <p>以前には、裏方大集合というのを、各都道府県のアマチュアが裏方をやっているホールを回ってやっていたことがあったのですが、受ける側が色々なことをするとすると、裏方の人間にはちょっと重た過ぎるというところがあって、今のところ遠ざかっているところもあるのですが、やはりそういったところを視察するのも大切ではないかと考えております。今後、後継者づくりをしていく中では、そういった部分が大事なところなので、継続していきたいなと考えております。</p> |
| <p>会長</p> | <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>では、〇〇さんいかがですか。</p> |
| <p>〇〇委員</p> | <p>〇〇です。</p> <p>新規事業が20件増えるとか、どんどんホールでの事業や新しいことが組み込まれているのが、嬉しいと思いました。ホールに対する親しみが、どんどん起こってくるのを期待しています。</p> |
| <p>会長</p> | <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>では、〇〇さんお願いします。</p> |
| <p>〇〇委員</p> | <p>〇〇です。</p> <p>まず、数字の話から申し上げようと思うのですが、1万人が2万人になったとか、そういう数が増えるということはもちろん大事なのですが、特に観光という言い方が、ちょっと大風呂敷過ぎて私はあまり好きではないのですが、先日からも申し上げているように、この間も実施した歴史好きの方だけのためのツアー等、また今度の日曜日にやりますが、一回目が終わった時に半数がリピート、次回を申し込むというような状況です。だから、その数としては20人かもしれないけども、やはり満足度が大事で、それがどう数字に表れるのかとなると、それは難しいところではありますが、必ずしも数が多いからいいということではないと、私も思っています。</p> <p>また、その観光というのが従来型と言いますか、とにかく綺麗な景色を観たら良いとか、何か有名な人のものを観たら良いとか、そういうものとはやはり違ってきます。丹波市が趣向するとすれば、そちらではなく、例えば先ほどの観光協会の紅葉巡りを批判</p> |

するわけではないのですが、もちろん来られないよりは来られた方が良いでしょう。でも、そういう書き方をすると「何が文化芸術なのかな？」みたいに、私は思っています。やはり、そこに従来の紅葉巡り事業もあるけれども、それにプラスして、例えば手前味噌ですけど社寺彫刻を観ていくとか、そういうことを加えてこそ文化芸術の観光なのではないかと思えます。紅葉だけで勝負するとなれば、京都等に敵うのか。それは違うと思いますが、そういうことではないことをプラスアルファしていくことこそが、こういう企画をやっていくことではないかと思えます。というのは、つい一昨日ですか、それこそ観光協会から急に依頼され、イギリス人の記者が来るからアテンドして欲しいということでした。たまたま語学はそれほど嫌いではないので、私がアテンドしたのですが、その中で一つは「京都にも同じようなお寺や庭があるけれども、どこが良いのですか？」と尋ねたら、「人が少なく、静かな所で30分も庭を眺めていられる。それが良い」との答えでした。やはり、そういうところを強調していかないと、ただ紅葉が綺麗、ただ庭があります、有名な作庭家が作りましたということではなくて、そこに文化芸術ということであれば、その時間の過ごし方とか、それが贅沢なんだということを書いていかないといけないし、そこが魅力だと思います。

もう一つは、新たな観光資源を発掘とおっしゃいますが、そのイギリス人の記者に「どこが一番良かったですか」と尋ねたら、彼女が答えたのは「田んぼが広がって、彼岸花がそれを囲っていて、瓦葺きの民家がそこにチラチラあって、後ろに緑の山がある」でした。要するに、私は丹波市に移住してきたのですが、ずっとここに暮らしている人にすれば一番ありきたり、当たり前すぎて、それが観光資源とっていなかったというものです。私は、これこそが観光資源だと思っていて、やはり田んぼの手入れをすとか、そういうことこそが一つの観光資源になり得ると。そういう美しさを改めてアピールしていく、あるいは見直していくということが、一つの新たな観光資源ではないかと改めて思いました。

あと、いっぱい言って申し訳ないですが、子どもたちのことです。私が歴史の講座で、夏休みに自由研究の子どもと一緒に神社やお寺を回っている際の、子どもたちのつぶやきです。特に具体例で申し訳ないのですが、「あるお寺の門は、赤くないのに赤門と呼ばれている。何故だろう？」「でも、お坊様はウチの御本尊は南を向いて立っているとおっしゃった。その南の門が赤門と呼ばれている」。そこで、五行思想というものがあり、赤というのは南を象徴する色だと別に教えたら、子どもが「別に赤くなくても良い。南にあるから赤門です」と気付いてくれました。ですから、それは“丹波市ならでは”とは違うのかもしれないけれど、そのような丁寧な子供たちの体験を数多く増やしていけたらと思っています。具体的な例として、先ほど舞台等で託児サービスを充実するというのがありました。これは、私も子育てをしてきたので、大変ありがたいと思います。もちろん、0歳からそういう本物に触れられる機会も大事ですし、普段は小さいお子様がいらっしゃることで、そういうものに触れられないお父様やお母様が触れることができる。それもやはり大事だと思うので、そこは是非進めていっていただきたいと思いました。

会長

はい。ありがとうございます。

イギリス人の方をアテンドされたお話は、すごく興味深い内容で、ここ数年はインバウンドの過剰、いわゆるオーバーツーリズムとなっており、京都では、とにかくインス

夕榮えする所に人が群がっています。観光の方に対するホスピタリティのほずなのに、これだけ観光でごった返して不愉快な思いをすると、その地域に対してネガティブな印象が出始めます。そのオーバーツーリズムに対して、私が何度も丹波に来させていただいている中で、やはりオルタナティブツーリズムみたいなことが出来る場所だと思うのです。里山の魅力というのは、ここに住んでいる方は気付かないのかもしれないけれど、今日私は神戸から来ましたが、本当に素晴らしいロケーションがバーッと広がるわけです。その魅力は日本人だからではなくて、ヨーロッパ人であろうと他の国の人であろうと、同じ感覚を持って下さる。だからオーバーツーリズムを超えたオルタナティブツーリズムとして、ゆとりツーリズムと言ってもいいと思いますけども、そういった場として丹波市というのは、これからすごく可能性があるのではないかと思います。その辺を観光協会ともしっかり話し合って、少し次のステップのツーリズムというのをここで考えていただきたい。不快感を持ち始めている人が、ここに来たらすごく好感を持ってくれるということが起こり得ると思いますので、それも面白い話だと思います。

〇〇さん、お願いします。

〇〇委員

はい。〇〇です。

丹波市の基幹産業には様々な産業がありますが、やはり農業が一番かと思います。そうした中で農村文化と言いますか、ちょうど旧氷上郡6町が合併した平成16年に丹波市役所の企画部企画課がC I戦略として作成されました、「丹の里（まごころのさと）」があります。この中には、春は「ごゆるりと」、夏は「ま～、上がっていきないな」、秋は「よーきちゃったな～」、冬は「ちょっと、あたっていきないな」という非常に穏やかな言葉があるのです。こういう気持ちというのは非常に大事で、こういう心掛け自体もしてきたのですが、何かこういうものがこの計画の中にも少し入る余地がないのかな、ということを非常に思いました。ちょっと時期的に遅いかもしれませんが、またこれを見ていただいております。それと71ページの推進項目の「地域への参画」ですが、これは市職員が実施主体になっています。実は、私も職員OBなのですが、若い頃は自分の村・自治会ですね、祭りも何もないような所でした、本来の業務もやらないといけないのですが、とにかく休みになったら一生懸命にお祭りを立ち上げたりして、現在も秋祭りや夏祭りが続いているのですが、非常にこのことが大事だと思います。ただ、今は非常に忙しい状況にあると思うのですが、やはりそのことを職員一人ひとりが考えることによって、さらに丹波市全体のそういう文化が継続され、また発展していくのではないかとということで、この部分に書いてありますが、非常に大事なところだと思います。以上です。

会長

ありがとうございます。

では、〇〇さん、お願いします。

〇〇委員

はい。失礼します。〇〇です。

基本的な考え方に「今あるもの、今していることを活かしていく」というのがあって、これは非常に大切だと思うのです。ただ、逆に言うと、「新規にこんなことを立ち上げます」ということではないので、活かしていくためのこの基本計画、今後のアクションプランというか、どういう仕掛けをしていくかということが、まだ今回の計画には出て

| | |
|---------------------|---|
| | <p>こないと思うのですが、すごく大切だと思います。設定したK P Iを達成していくために、「今あるものを大事にしていきたいと思います」というだけでは、なかなか一筋縄では行かないと思うので、どういった仕掛けをしていくかということがすごく大切だと感じました。</p> <p>本日、赤字で説明された中で、ちょっと印象に残ったのが、「文化芸術の広域交流を進める」ということが、前回からの訂正分として挙げられていたと思います。これは、アンケート結果を受けて「こういうことをやっていきます」ということなのですが、逆に言うと、これまでに丹波市には無かったものを外から受け入れるということなので、一つの作品になるのではないかなと思っています。国内外の文化芸術を通じた交流だと思うのですが、もし何かイメージとして「今後こんなことを考えていきたい」ということがあれば、教えていただけたら嬉しいです。もう一つは、交流というからには、丹波市のものを外にアピールすることも一つであり、受け入れるだけが交流ではないと思うので、具体的にならなくてもいいのですが、現在、描いておられるイメージを教えていただけたら嬉しく思います。</p> |
| <p>会長</p> | <p>ありがとうございます。</p> <p>70ページのアンケート結果ですね。人材：23.7%、国際交流：9.6%と非常にここが低いというか、少ないのですが、実はこれを年齢別の分析結果で見ると、先ほどお話しした30～39歳は他の年齢に比べて、ここの割合が高くなっています。ここが重要だということをおっしゃっている。つまり、その世代は、すごく刺激が欲しい。外からの刺激、新しい刺激が欲しいということだと思いますが、そこはかなり足りていないのではないのかなという気がします。</p> <p>一見して、何か特に国際交流だけでなくでもいいのですが、他の地域との交流事業ということで考えていらっしゃることはございますか。</p> |
| <p>事務局 (課長)</p> | <p>はい。〇〇委員のご質問に対して、2点ございます。</p> <p>これは実現できるかどうか分かりませんが、1点目は例えば、先日、豊岡市が演劇祭をされました。そういった中で、丹波の方でも演劇祭をしていただくような取り組みが出来ないかと。実現可能かどうかは別として、思っております。もう1点は、アートコンペティションという展覧会を来年の2月から初めてさせていただきますが、現在、事務局で考えておりますのは、福知山市・西脇市・丹波篠山市等の周辺地域の美術展で大賞を取られた方の作品をこちらで展示して、観ていただくことです。このように市外の方にも来ていただき、市内外の作品を観ていただくような機会を作れば、交流が出来るのではないかと考えているところでございます。</p> |
| <p>会長</p> | <p>豊岡市で新しい演劇祭を始めました。今回は1週間だけだったのですが、もの凄い人気で一杯になりました。来年は、9月に2週間の開催予定です。現在、世界中の劇団からオファーが来ている状態ですので、上手く組み合わせると地域が近いですから、それほどの移動時間もお金も掛けずに、こちらで上演をしてもらおうということは、十分に可能だと思います。</p> <p>それから、シューベルティアードには、海外の方も来ておられます。私がずっと関わってきた神戸国際芸術祭が来年からリセットして、室内楽中心の「ウィーンの情熱」と</p> |

いうのを始めます。1週間から10日くらいですが、それが距離的に近いので、シュールティアードと一緒に回していくということが、可能ではないかと思えます。そういう形で、国内・国際的な交流を県内で合理的に促進していくというチャンスがあるのではないかと。これは、ネットワークをどうやって作っていくかということになると思えます。

では、委員の皆さんを一巡して、修正箇所を中心にご議論・ご意見をいただきましたので、これを活かした最終バージョンに向けて作り直していきたいと思えます。

次に、基本理念ですが、ちょっと字が小さいので、たぶん実際に冊子として書き込む時にはもう少し大きな字になると思えますが、このところについてのご意見をいただきたいと思えます。37ページの下の「基本理念・計画のスキームについて」です。上の図は、前回から変わっていないですね。

事務局
(課長)

はい。図中の文化芸術という大きい字で書いてある下の、ちょっと小さくて見にくいのですが、「芸術」や「伝統芸能」等と書いている順番を変えさせていただいたくらいで、後は同じです。

会長

ちょっとだけ補足しておきますと、この基本理念について、前は全く紹介していませんでした。前段というか、最初の部分は「丹波市内で長い時間を掛けて育まれてきた伝統的な文化芸術、歴史というものを大切にしましょう」ということと同時に、やはり文化芸術というのは人類にとって普遍的な価値があるわけで、丹波市の中で育まれてきたものだけではなく、先ほど、外からということがありましたけど、人間のまさに人格形成にとって必要不可欠なものであるというような位置付けをしています。「この計画でいうところの文化芸術は、一体何を指しているのか」ということをかなり議論しましたが、いわゆるアート・芸術だけではなく伝統芸能、文化財、それから歴史的な建物等を幅広く含んでいます。それから文化芸術というと、コンテンツ・中身のことを考えてしまいますが、それだけではなくて、文化芸術を支える人とかインフラ、文化ホールや劇場等、それから美術館や博物館等も、この計画の対象にしているということです。ですから文化芸術を形作っているのは、一つはコンテンツ。様々な文化芸術の分野・ジャンルなのですが、そこには文化財系・街なみ系のものも入ってくる。それから、文化的な景観なども含めても良いと思っています。さらには、それを育むためには基盤が必要ですので、そのためにはインフラということも含まれていると。それから、支えている人としての人材、人ということも入ってくる。そういった意味でお考え下さい。ですから、「文化芸術というものを中心概念・主体概念に持ってくるべきなのか」「文化的資源、あるいは文化資源という言葉が一番中心的な概念として持ってくるべきか」を随分と議論をしたのですが、計画としては文化芸術を振興する基本計画なので、文化芸術という概念に今言った全てを包括するというので、ここでは規定してみたいと思えます。それが一つは「人づくり」、他方では「まちづくり」に分かれていくということになるかと思えます。

はい、いかがでしょうか。違和感とかございませんか。次のページを見ると施策体系で「市民に関すること」「活動者に関すること」「子どもに関すること」、4番目の「活用に関すること」だけ、ちょっと違和感があったかと思えますが、この4つに分けて方向性というか、考えていければと思えます。

| | |
|-----|---|
| 副会長 | よろしいですか。 |
| 会長 | はい。お願いします。 |
| 副会長 | <p>前回、色々な意見を申し上げましたが、今回の書きぶりではスキームを前に持ってこられています。しかも、具体的に38ページの基本理念の中に、上から3つは主に「人づくり」に紐づけられて、4つ目の項目は文化的資源とか文化芸術を活かすという格好で、主に「まちづくり」に紐づけられている。すごく分かりやすいスキームの説明になっていて、先般申し上げたことがこういう形で、基本理念のところでは他市とはちょっと違う幅を持った。その中に多様な文化芸術を活かした。そういう幅を上手く説明されている。いい形でまとまっているのではないかと私は思います。</p> |
| 会長 | <p>ありがとうございます。 他の方がいいでしょうか。基本理念は、この辺りでまとめていきたいと思っています。</p> |
| 副市長 | ちょっといいですか。 |
| 会長 | お願いします。 |
| 副市長 | <p>私から言うのも変なのですが、例えば38ページ～39ページ辺りのまとめ方で、前の37ページとの兼ね合いもあるのですが、こちら側でまとめておいて今気づいたのですが、〇〇先生がおっしゃるように「市民に関すること」「活動者に関すること」「子どもに関すること」が、前の37ページでいう「人づくり」で文化芸術が本来的に持つ価値。そして、「まちづくり」という辺りは、文化芸術が本質的に持つ価値とは別に社会的な価値であったり、経済的な価値であったりというもの。その辺りの本質的な価値のところを「人づくり」、社会的価値・経済的価値を「まちづくり」みたいに整理にして、さらに「人づくり」をどちらかという文化を觀賞する側のことを「市民に関すること」。それから、文化芸術を提供する側のことを「活動に関すること」。そして、さらに文化芸術を次世代に受け継いでいく方を「子どもに関すること」。そういう整理にしているのですが、活動者も子どももみんな市民なので、最初は「市民に関すること」が、どちらかという文化芸術を享受する・鑑賞する側だと言うには、少し大きく括り過ぎた言葉なのかもしれないという感じを受けていて、「市民に関すること」というのは言葉として良いのかどうか。ある意味、最初の3つは全て市民なので、そこは一度検討しないといけないという感じはします。</p> <p>それと、「市民に関すること」「活動者に関すること」「子どもに関すること」が「人づくり」だということが分かるように、この3つをさらに大きく「人づくり」と分けて、下を「まちづくり」というような位置付けにするような、そういう分かりやすい整理をする方が良いと思っています。その辺は、ちょっと表現の仕方として、一度整理をしたいと思っています。</p> |
| 会長 | そうですね。 |

| | |
|-----|---|
| 副会長 | <p>もう少し大きな括りで言いますと、上から3つが「まちづくり」に寄与していないかというところではなくて、やはり全体としては「人づくり」、あるいは「まちづくり」であるという、すごく大きな幅だと思います。</p> <p>ただ、分かりやすさから言うと、この整理の仕方は、すごく分かりやすいという印象は持ちました。</p> |
| 副市長 | <p>そうですね。だからそういう意味では「人づくり」「まちづくり」という分け方も、例えば国の文化芸術の計画等では、「文化の持つ本質的価値」とそれから「本質的価値とは異なる社会的・経済的価値」という大きな分け方をされていて、そういう分け方でいく方法もありますが、ちょっと難しくなってしまうので、それを簡単に言うと「人づくり」「まちづくり」というような分け方。〇〇先生がおっしゃるように、上の3つは「まちづくり」に関わらないのかということ、確かに「まちづくり」にも関わっていますし、「人づくり」が「まちづくり」にも関わっていきますし、そういう意味では相互に関係すると思っています。</p> <p>より分かりやすく、どう切っていくのが分かりやすいかというような、どこかでちょっと拘りを捨てたところの整理もしないと、なかなか整理しにくいというのがありまして、そこがちょっと難しいと思っています。</p> |
| 副会長 | <p>なかなか一言では言いにくいのですが、このスキームのポンチ絵がそれぞれに繋がっているというイメージで描かれているので、こういう形で表現されると考えたらいいのではないのでしょうか。4項目に関して、やはりこのように紐づいていく方が読んでいる側もすごく理解しやすい。この整理の仕方は、これですごく結構ではないかと思いません。</p> |
| 副市長 | <p>そうすると最初の3つを「人づくり」で括らない方が、いいということですか。</p> |
| 副会長 | <p>いや、括らないではなくて、そう説明する方が分かりやすい。</p> |
| 副市長 | <p>分かりやすい。</p> |
| 副会長 | <p>ただ、スキームの絵の中に、それぞれに関連しているという表現がされています。</p> |
| 副市長 | <p>37ページの方で、それは読み取るということですか。</p> |
| 会長 | <p>国の方で出している方針というか計画で、やはり文化芸術そのものの価値というのはブラックボックスで、あまりちゃんと説明されていません。だから、本当に研究者でも「本質的価値、本質とは何だ？」というのは難しく、それは「人づくりだろう」という考え方も勿論あります。それは、私も共感するところなのですが、文化芸術そのものが持っている価値は、「人づくり」を超えたものもあつたりします。</p> <p>それから、国がもう一つ分けているのは、中黒で「社会的・経済的価値」にしていますが、社会的価値と経済的価値というのは、中黒で繋がるようなものではないと思いま</p> |

す。だから、ちょっと国の方針に対して、私は少し違和感があるので、それに引っ張られる必要はないかなと思います。

それから、丹波市の場合は文化芸術を活用するといっても、いわゆる文化産業として展開できるかという、人の面とかそれから環境の面とかでなかなか難しいところはあると思いますので、だから「まちづくり」として活用する。あるいは、「コミュニティ再生のために活用する」というのであれば、一番妥当ではないかと思います。

それから、さっき話が出てきた「賢い次世代の観光のために活用する」というのも可能ではないかと思います。

副市長

そういう意味では「まちづくり」、要するに活用のところは、今回ある意味では重要なポイントとして、この計画の中に挙げています。

例えば、色々な議論が出た78ページの数値目標とかも、「まちづくり」の目標として相応しいものが挙がっているのかどうかということで、もしかしたら、なかなか数値目標としては計りにくいのですが、文化芸術を仕事にしている人の数とか、あるいは文化芸術によるGDPとか、そういうものの方が本来的価値ではない経済的価値として、文化芸術がどれだけ価値が膨れ上がったかという意味では、「文化芸術の雇用者数が一体いくらからいくらに上がった」「文化芸術が生み出した経済的価値が、GDPがいくらからいくらになった」というようなものが、ある程度の現状と目標数値を計ることができれば、まさに「まちづくり」のいい指標にはなると思います。そういう指標が計れるのかどうか、ちょっとよく分からない部分があります。

あるいは、丹波市への観光客数は大体200万人くらいですが、文化芸術を目的にして丹波市を訪れている観光客数が、例えば、そのうち約1割の20万人だとしたら、それをさらに30万人にするというような、単なる観光客の入込者数を目標にするのではなくて、文化芸術を目的にしたり、ターゲットにしたり、それに興味を持って訪れている人の数をいくらからいくらにするという指標が出来れば、一番この計画に相応しい指標ではないかと思います。

会長

そうですね。今の指標の話でいうと、例えば、内閣府が中心になって、文化庁と一緒に考えている文化経済戦略です。文化GDPというものを数値化しようということになっており、何年後に何%にして、さらに何百億・何千億円規模の市場にしたいという指標が出てきますが、これは非常に数合わせのための改ざんを進めているようなものです。実情には無いようなことを色々寄せ集めて、見える化をするという、嘘の数字がたくさん出てきているので、これは非常に危険なことだと思っています。特に、ここで扱っている文化芸術や文化産業で扱っているものとは、またかなり分野が違います。例えばゲームソフトとか、パソコン関係も全て文化産業と言ったらそうなるので、これは国によっても違います。いわゆる創造経済、クリエイティブインダストリーと言われているものと文化産業は同じなのか、それと文化芸術は同じなのかといった時に、相当グラデーションが違います。したがって、それも数値化するというのは、かなり皆に寄与しないと本当に数合わせだけの問題になってくると思います。ただ、後の方でおっしゃった、いわゆるカルチュラルツーリズム（文化観光）に関しては比較的に出しやすく、例えば、現在、瀬戸内国際芸術祭をやっていますけれども、そういったものはどれだけの人を訪れて、どれだけの人がお金を落としていったかということ

| | |
|---------------------|--|
| | <p>は、数値化がしやすいと思います。しかし、そのためには仕掛けというか、例えば実際に丹波市内でアートフェスティバルをやるとか、演劇フェスティバルをやるとか、音楽フェスティバルをやるとかというようなことがあって、初めてその数値に達することが出来るわけです。現在の状況で、何もその仕掛けを作らない、あるいはそれに対する初期投資もしない段階で、この文化ツーリズムによって数値を上げるというのは、そう急激には上がらないのではないかと思います。ただ勿論、何か華々しいフェスティバルをやらなくても、先ほど〇〇先生がおっしゃったような形で、ソフトな道で巻き込んでいくというのは、できるかと思います。たぶん指標としては、例えば5年後に3割増しくらいとかであれば妥当だと思うのですが、それが何倍とかいうのは難しいと思います。</p> <p>他には、いかがでしょうか。</p> <p>それでは、無いようでしたら、先に進ませていただきたいと思いますよろしくお願いします。</p> |
| <p>会長</p> | <p>(3) 丹波市文化芸術推進シンポジウムについて</p> <p>では、次第の「(3)文化芸術推進シンポジウム」につきまして、事務局よりご説明をよろしくお願いいたします。</p> |
| <p>事務局 (課長)</p> | <p>はい。それでは、こちらの青色のチラシをご覧ください。ございますでしょうか。</p> <p>丹波市文化芸術推進シンポジウムについて、ご案内をさせていただきます。</p> <p>アンケート調査によりまして、多様な文化芸術の推進に係る課題が明らかになりました。10月19日（土）に、ライフピアいちじま大ホールで開催させていただきます。</p> <p>内容につきましては、氷ノ川太鼓の「和太鼓パフォーマンス」。基調講演は、本審議会の〇〇会長に「市民アンケート調査結果から見える丹波市の文化芸術の現状と課題・将来展望」と題しまして、ご講演をいただきます。その後、認定こども園ミライズそらの5歳児によりまして「大正琴パフォーマンス」。パネルディスカッションは「多様な文化芸術を活かした次世代の人づくり・まちづくり」と題しまして、市内外の4人のパネリストに文化芸術と子育て、また文化芸術の活用に関する「実践発表」をいただき、一緒に考えてみたいと考えております。本審議会の代表として、〇〇委員にパネリストをお世話になります。どうかよろしくお願いいたします。最後に、「スプレーアートパフォーマンス」を、ライフピアいちじまの特設ステージで実演させていただきます。パフォーマンスは、スプレーアートの日本チャンピオンになられた方で、20分ほどで市販の水性スプレーを使用して、様々な絵を描かれる癒し系の、生では滅多に見られないパフォーマンスを行っていただきます。非常に楽しみにしております。是非とも、ご予定をいただきたく、ご案内を申し上げます。</p> |
| <p>事務局 (課長)</p> | <p>4 今後の予定について</p> <p>それでは、最後の「今後の予定」につきまして、次第をご覧ください。</p> <p>次第の裏面、4番でございます。</p> <p>第6回の審議会につきましては、11月22日（金）とさせていただきます、11月下旬頃からは市民の皆さんへ「パブリックコメント」を募集させていただく予定にしております。</p> <p>なお、審議会の開催につきましては、改めてご通知をさせていただきます。</p> <p>以上でございます。</p> |

| | |
|-------------|--|
| 会長 | はい。ありがとうございます。 |
| 会長 | <p>5 その他</p> <p>それでは、次第の「5 その他」に移ります。</p> <p>良い機会ですので、何かご発言がございましたらよろしくお願いします。</p> <p>シンポジウムの参加者数がちょっと心配です。数日前、豊岡市で新文化会館を建てる基本計画を作っていて、その仕上げのシンポジウムがあり、なかなか面白い面々が集まった、面白い話だったのですが、参加者が非常に少なくでちょっと悲しい思いをしました。色々とお誘い合わせの上、よろしくお願いします。</p> |
| 〇〇委員 | <p>質問なのですが、この計画（案）に「生涯学習等施設」という項目があるのですが、その中で、例えば県立の丹波年輪の里が16ページ辺りに出てきます。今年は、まだ行けていないのですが、「アートクラフトフェスティバル」は28回くらい続いていますし、「ウッドクラフト展」は32回ほど続いているようです。非常に面白い展覧会をされています。そうすると、このようなものは生涯学習等施設に入らないのか。後ろの方の一覧表に入っていますが、20回以上も実施しているイベントがあるのであれば、丹波年輪の里は県立の施設ですが、顕彰した方が良いのではないかと思った次第です。</p> |
| 事務局 (課長) | <p>はい。抜けている部分につきましては、こちらの方に入れさせていただきたいと思えます。施設は「主なもの」、また活動者は「活動例」ということで掲載していますので、全てを網羅することは、なかなか難しいと思っております。しかし、そういった回数を重ねられているものに関しては、出来るだけ入れるようにしたいと思っております。</p> |
| 会長 | <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>他にございますでしょうか。よろしいですか。</p> |
| 会長 | <p>6 閉会</p> <p>それでは、会議次第の最後の「閉会」に当たりまして、〇〇副会長からごあいさつをよろしくお願いします。</p> |
| 副会長 | <p>はい。本日は、お疲れ様でした。</p> <p>色々皆さんのご意見を取り入れながら、基本理念の「多様な文化芸術を活かした次世代の人づくり・まちづくり」、非常に幅のある文化芸術推進計画が出来つつあります。</p> <p>今回は11月22日ですが、11月と言いますと本当に丹波市が一番美しい時期でして、私はこの時期に休みがあれば、車であちこち回っていますが。11月22日は紅葉が盛りの頃ということで、青垣の高源寺、春日や独鈷の滝にも行きます。</p> <p>本当に素晴らしい旧6町の観光名所、そういうものを見ながら文化芸術を考えていく、そういう場になっていくと思います。</p> <p>本日は、どうもお疲れ様でした。</p> |